

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

里山再生事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

美濃加茂市

3 地域再生計画の区域

美濃加茂市の全域

4 地域再生計画の目標

本市は面積の 39.6%が森林で天然林 2100ha を有している。しかしながら、長引く木材不況と材価の低迷から森林所有者の経営意欲が減退することで、雇用の機会が減少し、山間部では若年人口の流出による人口減少が進んでいる。その結果、里山の整備が放棄され、広葉樹林等の竹林化進行や農地の山林化及び有害鳥獣被害が増加している。そのため、本事業において、環境保全に関わる機能や癒し効果・遊びの場など、本来の里山機能を取り戻すための森林づくりを行い、里山の多面的な利活用を進める。また、整備時に排出される伐木後の樹木（竹、アベマキ）などを「里山資源」とすることで、持続可能な里山ビジネスを展開し、雇用を創出することによって補助金だけに依存しない循環型の里山整備を目指す。

【数値目標】

事業	里山ビジネスモデル 構築事業	年月
KPI	林業従事者数	
申請時	31人	H28.3
初年度	35人	H29.3
2年目	40人	H30.3
3年目	45人	H31.3
4年目	50人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例
(内閣府)：【A2007】

(1) 事業名：里山再生事業

(2) 事業区分：農林水産業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市は面積の39.6%が森林で天然林2100haを有している。しかしながら、長引く木材不況と材価の低迷から森林所有者の経営意欲が減退することで、雇用の機会が減少し、山間部では若年人口の流出による人口減少が進んでいる。その結果、里山の整備が放棄され、広葉樹林等の竹林化進行や農地の山林化及び有害鳥獣被害が増加している。そのため、本事業において、環境保全に関わる機能や癒し効果・遊びの場など、本来の里山機能を取り戻すための森林づくりを行い、里山の多面的な利活用を進める。また、整備時に排出される伐木後の樹木(竹、アベマキ)などを「里山資源」とすることで、持続可能な里山ビジネスを展開し、雇用を創出することによって補助金だけに依存しない循環型の里山整備を目指す。

(事業の内容)

・里山ビジネスモデル構築事業

今まで切り倒していただけていた伐採した材木(アベマキ・竹)を「里山産材」としての需要を喚起していくため、里山産材を使用した学校机の天板などの商品化を目指す。これにより、伐採する→商品化する→木材商品の販売額が増加する→木材が必要→より伐採が必要→伐採する林業従事者が必要という流れを構築する。中でも「アベマキ」は今まで材質が硬いという木の特性上、活用が難しい樹木であるため製品化された例はほとんどない。販路開拓にあたっては、活用方法の検討・PR及びマーケティング調査など官民協働で進めていく。

→各年度の事業の内容

里山ビジネスモデル構築事業

初年度) 公共施設での「里山製品」の利活用1件、資源量調査及び「里山資源」活用モデル提案1件。

里山ビジネスモデル構築に向けた調査・研究を主として行う。

2年目) 「里山製品」制作2品、商品化ルート確立1件、資源量調査完了、「里山資源」活用モデル提案2件。

里山ビジネスモデル構築の具現化に向け、ルート開拓、PR等を進める。

3年目) 商品化ルート確立2件、公共施設の「里山製品」利用施設3件。
里山ビジネスモデル構築の具現化に向け、事業を実施する。

4年目) 確立したビジネスモデルを基に、補助金に頼らない里山整備を進める。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、基本目標として転入超過を続ける「まち」(社会増 200人/年)を掲げている。転入者を増やすには、様々な要素があるが、雇用増加の面で、里山資源を活かしたビジネスモデルの構築を総合戦略の施策として定めており、林業従事者を増加させることによって、本目標の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	里山ビジネスモデル構築事業	年月
KPI	林業従事者数	
申請時	31人	H28.3
初年度	35人	H29.3
2年目	40人	H30.3
3年目	45人	H31.3
4年目	50人	H32.3

(6) 事業費

(単位: 千円)

里山ビジネスモデル構築事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	16,646	24,843	22,890	20,890
区分	委託料	16,256	14,453	12,500	10,500
	使用料	0	0	0	0
	工事請負費	0	10,000	10,000	10,000
	需用費	390	390	390	390
	役務費	0	0	0	0

(7) 寄附の見込額

(単位: 千円)

里山ビジネスモデル構築事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	16,646	24,843	22,890	20,890
	寄附額計	3,000	5,000	10,000	15,000
寄附法人	I T 関連業	1,500	3,000	5,000	7,000

	I T 関連業	1,000	1,000	2,000	2,000
	I T 関連業	500	1,000	3,000	6,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCAサイクル)

(評価の手法)

事業の KPI である林業従事者数について、実績値を公表する。

(評価の時期・内容)

前年度の達成状況について、翌年度の6月に外部有識者（美濃加茂市女性活躍推進市民会議及び外部有識者として委嘱する美濃加茂市総合戦略推進アドバイザー）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに市発行「広報みのかも」及び市公式WEBサイト上で公表する。

(9) 事業期間 平成28年9月～平成32年3月

5-3 その他の事業
該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の KPI である林業従事者数について、実績値を公表する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

前年度の達成状況について、翌年度の6月に外部有識者（美濃加茂市女性活躍推進市民会議及び外部有識者として委嘱する美濃加茂市総合戦略推進アドバイザー）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに市発行「広報みのかも」及び市公式WEBサイト上で公表する。

